

ひきこもりの相談支援充実事業

<内容>

専門職（精神科認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）によるひきこもりの相談支援、家族心理教育（家族教室）、訪問支援、居場所の確保、精神科医等のスーパーバイザーの確保。（ふらっとコミュニティに業務委託）

<実績>

	相談支援利用者数	家族心理教育開催数・延参加者数	訪問支援利用者数・延件数	居場所設置利用者数・延回数	日中一時支援事業移行者数・延回数	受診についた件数	復職・復学・進学者数	利用者への個別対応又はグループ活動	精神科医等スーパーバイザーの確保
H27年度	来所 82 人	33 回 延 206 人	4 人 延 14 件	3 人 延 15 回	2 人 延 9 回	4 件	4 人	10 回	2 回
H28年度	来所 93 人 電話 300 件	34 回 延 213 人	7 人 延 9 件	6 人 延 236 回	3 人 延 134 回	3 件	2 人	48 回	2 回

《その他 PR 活動等》

- ・ふらっとフォーラムの開催。当事者 2 名が「ひきこもりの経緯やその時の思い」を発表。
- ・中学校卒業後のひきこもりを予防するため、不登校児などの卒業後の居場所や家族の相談場所として中学校教員へ紹介。

<評価>

2 年間の活動及び広報活動等により、「ひきこもり相談窓口」として周知されるようになり、一年未満や不登校、休職者、ひきこもり予備軍の電話や来所相談も増えてきた。

長期化したひきこもり者にも、家族への心理教育からアウトリーチを通じて、定期的な居場所利用や日中一時支援の利用へとつながるケースが増えた。

利用者への個別対応やグループ活動も活発に実施し、当事者同士の交流につながった。

ふらっとフォーラムでは、ひきこもり当事者と家族が自己の体験を発表したことで、当事者家族も多くの人に「ひきこもり」を知ってもらい、偏見をなくしたい、孤立している家族を救いたいという気持ちを抱いていることが明確となった。

<今後の具体的な取り組み>

(1) ひきこもり居場所の支援強化

通所者の支援強化、継続性のある取り組みを行っていくことで、ひきこもり者の社会参加を図っていく。また新たに、「山口大学大学院教育研究科附属臨床心理センター」の臨床心理士及び大学院生との協働を進めている。

(2) 家族会「あじさいの会」の独立

これまでは、保健所主導型の家族会であったが、家族主体の運営とし、委託法人がサポートする形で「家族だからできること」を一緒に考えていく。

(3) 広報活動

ひきこもりに関する講演、本事業の 2 年間の報告等のフォーラムを開催予定。

(4) 教育機関との連携

中学や高校の不登校者が卒業後にひきこもり状態となるケースがあることがわかってきたことから、早い段階で家族支援を開始するために連携を図っていく。